

問三 傍線部2「臭い演技をする人」とは、どのような人か。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えよ。

イ うまく演じようとする技巧が目立ちすぎ、逆に下手な演技に陥っている人。
ロ 自分の身につけている能力以上の技巧を見せつけようとしている人。
ハ 技巧というものに対する理念を、芸術論にまで高めようとしている人。
ニ 技巧を越えた技巧におぼれるあまり、表現すべき自己がなくなつた人。
ホ 技巧的には優れていても、表現における自我関係の機微に無自覚な人。

問四 傍線部「短歌というものは、心が余って詞が足りないのがよろしい、というのが大多数の意見であります」とあるが、「詞が足りないのがよろしい」という「意見」は、「短歌」についてのどのような考え方にもとづいているのか。その考え方を、本文中の表現を用いて四十文字以内で述べよ。

[illegible]

問五 空欄 A [] D には「詞」か「心」のいずれかが入る。「詞」が入ると思われる場合は 1、「心」が入ると思われる場合は 2 を、それぞれ選んで答えよ。

A ☐

B ☐

C ☐

D ☐

すべては仮説

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

新聞を読んでいると、コメントという奇妙なものを眼にすることがある。大きな政争や事件が起きた時などに、「識者の意見」とかいう名のもとに、力^aがけられる、あれだ。このような国民不在の総裁選にはうんざりさせられる、とか、この事件の責任は犯人の少年ばかりでなくそれを許した周囲にもある、とか、一昔も前からほとんど変わっていないそうにない紋切型の意見が、器用に敷衍に要約され載っている。変わらないことが悪いというわけではない。いつの時代にも妥当する正しい意見というものが、あるいは存在するのかもしれない。ただ、大学教授、評論家、作家といった人々から、何をしているのかは知らないがとにかく有名ではあるといった人々に到るまで、およそ彼らが発しているコメントなるものを読み、心の底から納得させられることは稀だというだけの話である。

② 時として、こういう風の吹きまわしか、私のところにもコメントを求める電話がかかってくることもある。だが私は、たとえそれが新聞であろうと雑誌であろうと例外なく断ってしまう。同じジャーナリズムの現場にいる者として断るのは辛い^{つらい}が、だからといって引き受けるわけにはいかない。別に、自分の喋^{しゃべ}ったことが正確に伝わらないからとか、記事の中で、ユガめられてしまうからというのが理由ではない。要するに私にはわからないのだ。その事件がどうして起きたのか

『私にわかつてゐることは』

〔著者出題歴〕

- ・筑波大学
- ・早稲田大学
- ・立教大学
- ・学習院大学
- ・日本大学
- ・聖心女子大学
- ・京都産業大学
- ・広島修道大学

46

など、当事者でもない私がどうしてわかるだろう。わかっていることは、X だけだ。たとえば、小学生が自殺する。新聞はその出来事、ショウサイとともに識者のコメントを載せる。さまざまな人がさまざまに意見を述べる。だが、それらは、多くの場合、憶測や予断にすぎず、事実の裏打ちのない意見は思いつきの域をでることがない。

③ 真に知識のある人や確かな技術を持っている人は、自分のよく知らない世界や出来事について語ることは極めて シンチョウなものである。なぜなら、彼らはどれほど自分が知らないかをよく知っているからだ。だから彼らは口ごもる。そして、そのことは、人間としてかなりまっとうなことだと私には思われる。私もできることなら、知らぬことを得々と喋る愚は犯したくない。しかし、いくらそう説明しても理解してもらえない時がある。そこで、なぜこういう事件が起るのだろうかと訊ねられるたびに、仕方なくこう言って断ることになる。

④ 「いやあ、それを調べるのが僕の仕事だから、あまり簡単に答を出してしまうと自分の仕事をひとつ減らすことになってしまふですよ」

⑤ ジョウダンまじりにそう言っていると、相手も笑って許してくれる。Aが本当は、調べたところで大したことはわかりはしないのだ。いや、調べれば調べるほどわからなくなっていくといったほうが正しいかもしれない。調べてもわからない。ただし、どこがわからないかははっきりしてくる。そう考えてくると、私たち、

5 第一問

いや少なくとも私が書くルポルタージュなどというものも、それが絶対の真実を伝えるなどというたいそうなものではなく、僅かにどこがわかりどこがわからなかったかを明らかにできるだけの私的な中間報告にすぎないことが理解できてくる。たとえそれが、どれほど見事に完結した結構を持っていたとしても、せいぜいがひとつの仮説にすぎないのだ。多分、あらゆる記事、レポートは中間報告であり仮説である。テレビで、朝となく昼となく主婦向けの番組で流されつづけている、いわゆる芸能レポーターたちのゴシップは、いかにも胡散臭いから逆に救われているところがある。最近では、彼らのレポートを見聞きして、それをそのまま信じてしまう人はあまりいないだろう。意識するとしなやかにかかわらず、それを一種の仮説と受け取る訓練ができていくのだ。

⑥ もしかしたら、本当に怖いのは彼らのヤクザなレポートではなく、いかにも真摯で、いかにも世を憂い、いかにも真実はこれだ、と主張しているようなものかもしれない。それ自体が単なるひとつの仮説にすぎないということを忘れ、書き手も読み手もこれを唯一無二の真実だと思い込んでしまう。そのようなレポート、記事は、書き手の善意の有無にかかわらず、常に危険なものに転化していく可能性を孕んでいる。

⑦ わかっていることは、わからないということだけ。私にとつての確かな出発点はそこにしかなく、また、長い取材の果てに辿り着く地点もそこでしかない。

■ 第一問

問一 傍線部 a～e のカタカナを漢字に改めよ。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 傍線部 1「コメント」という奇妙なもの」とあるが、筆者は「コメント」についてどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ どの時代にも妥当する正しい意見がまとめられていることに感心させられる。
 ロ 思いつきにすぎない類型的な意見が多く、心から納得できるものは少ない。
 ハ 同じ業種の人々の意見はとて興味深い、自分のコメントは避けたいと思う。
 ニ 喋った内容が正確に伝わらないので、コメントの依頼を断ることにしている。
 ホ 時代の変化を無視した、変化のない紋切り型の意見が多いので、信用できない。

問三 空欄 X に入れるのに最も適当な十字以内の表現を本文中から抜き出して記せ。

--	--	--	--	--	--	--	--

問四 筆者は「傍線部 2「いわゆる芸能レポーターたちのゴシップ」と傍線部 3「いかにも真摯で、いかにも世を憂い、いかにも真実はこれだ、と主張しているようなもの」の違いをどのようにとらえているか。傍線部 2を「前者、傍線部 3を「後者」として、本文中の語句を用いて五十字以内で説明せよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問五 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 事実を調べてもわからなくなるだけで、調べないのと同じことである以上、余計な詮索をせず、何も語らないに越したことはない。
 ロ 自分が無知であることを自覚している人ほど、謙虚に物事を知ろうとするため、あらゆる物事について語れるようになるものである。
 ハ コメントを求められても、当事者でない自分が事件についてわかるはずもないので、にべもなく断ることにしている。
 ニ 事実を調べ上げても大したことがわかるわけではないが、少なくとも、調べもしないで知らぬことを得々と語る愚だけは犯したくない。
 ホ 当事者以外の人間がいくら取材しても明確になることなど何もなく、結局のところ、あらゆる記事は私的な中間報告にすぎないと言える。